

第5回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成28年11月28日（月）
開 会：10時00分
閉 会：11時16分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第2委員会室
3. 出席委員 石川芳秀 委員（委員長） ・ 清水孝清 委員
齋藤万由美 委員 ・ 檀上理恵 委員 ・ 水戸美代子 委員
4. 欠席委員 荒木和美 委員 ・ 若林隆志 委員
5. 出席職員
生活福祉部 児童福祉課 係長 森田一徳
企画振興部 企画振興課 課長 加藤武徳
企画振興部 林業振興課 課長 森繁光晴
企画振興部 林業振興課 係長 後藤 宏
総務部 行政管理課 課長 山根啓荘
総務部 行政管理課 係長 東 健治
総務部 行政管理課 主任主事 横山敬之
総務部 行政管理課 主任主事 川島球花
6. 傍聴者 1名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第5回庄原市行政評価委員会次第

平成28年11月28日（月）10：00から
庄原市役所5階 第2委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 総括意見の集約

(1) 高齢者世帯雪下ろし支援補助金

資料1

4. 評価意見の検討

(1) 保育所児童送迎業務

資料2

(2) 地域マネージャー活用事業交付金

資料3

(3) ひろしまの森づくり事業（環境貢献林補助金）

資料4

5. その他

6. 閉 会

会議経過

1. 開会

2. 委員長あいさつ

今回も忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3. 総括意見の集約

(1) 高齢者世帯雪下ろし支援補助金

資料1

総括意見

評価：現行どおり

降雪量の多い当市では、冬季の雪下ろしが必要であり、引き続き、高齢者の降雪期における在宅での安心な生活を確保するため、現行どおり実施されたい。ただし、限度額等の拡充検討を状況・年度に合わせて考慮することを附帯事項とする。

4. 評価意見の検討

(1) 保育所児童送迎業務

－ 事務局より資料2について説明 －

【⑤縮小】の意見

評価シート記載意見

送迎に至った協議経過や申し合わせ等もよく確認すべきとは思いますが、現状についての説明を受ける中で、課題は多いと感じます。(送迎地域等)

終期の設定、自己負担の導入等を含めて、全体のルールを見直すべきと思ひます。理想的な話かもしれませんが、スクールバス、地域生活バス、場合によっては、サロンへの送迎やデイサービス送迎を含めて、制度単位の送迎の枠組みを取り扱うような、共生型、共用型の生活支援サービスとなることを目指していただきたい。

委員：評価シート記載のとおり。

【①拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

保育所児童の送迎については、保育所統合に伴う従来の保育所に通えなくなった補償の意味もあり、当時の保護者と協議の結果生まれたものであると理解している。数十年経過した今日では、通常のように送迎が行われているのが現状である。色んなパターンがある現状の中では、制度の再検討は必要である。

委員：評価シート記載のとおり。

【②拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

これまでの統廃合の経緯から、現行通りの送迎は必要に感じる。しかしながら、主に統廃合の年数が経過した箇所を中心に地元の理解が得られた場合は地域生活バス等への利活用も考え、安全性も考慮する中で事業費の削減に見直すことも考えられる。

委員：評価シート記載のとおり。

【③拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

合併して10年経過、そろそろ地域別条件不平等現象を是正して、7地区平等条件で行えるシステムを検討してはどうか？（送迎支援制度みたいなもの）

子育てのしやすい街を作るには、必要な制度と認識する。

この制度が定住意識に繋がることを期待する。

委員：縦割りではなく、他の事業と連携すべきと考える。また、公平で子育てのしやすい事業としてのシステムづくりが必要である。

【④拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

庄原市として子育て支援の充実は必須であり、保護者の負担軽減と安全な通所を確保する実施目的に沿う事業だと思います。

1) 終期設定はしない

2) 実施区域の見直しは必要

3) スクールバスや生活交通バスの活用は検討すべき（課題が多く、調整が大変でしょうが）

また、送迎料徴収の検討も必要だと思います。

委員：全ての受益者が公平ということは不可能と考えるが、本事業の不均衡は一定程度是正すべきと考える。

【⑥拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

地域の地理的条件、対象幼児・児童の分布状況、個々の家庭の事情など、異なる点多すぎて、市全体の事業として一律に実施するには難しいと感じます。どこまで実施しても（おそらく）個々の要望には応えきれないし、公平性も担保できないし・・・そこに加えて、地域の保育園の統廃合の際に保護者と交わした覚書があるということになれば、市民による行政評価の対象となる事業であるのかどうかさえ、そもそも疑問です。「まちづくり・地域づくり」の中で、子どもの幼児教育をどのように位置づけるか、地域全体で話し合う・・・くらいの根本的な取り組みをしないと、「送迎業務」という事業単位では評価も解決もできないのではないのでしょうか。

委員：縦割りではなく、他の事業との連携も模索するなど、広い視点から事業費の抑制を図るべき。

【⑦拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

保育所統廃合時の経緯は最大限尊重しつつも送迎バス利用者的大幅減等によりそのサービスの費用対効果が悪化した場合は一定のガイドライン（利用人数）を設けて見直しをはかることも必要と思う。ただし、地域の同意が必要なことは言うまでもない。

委員：保護者と保育士との意思疎通の面からも、子どもの立場からすると保護者の送迎が最善と考える。

－その他の意見－

委員：利用率が44.3%と低い理由は何か。

事務局：3歳未満の児童は送迎の対象とならず、3歳未満の兄弟がいる場合や送迎時間の関係など、

保護者の事情により利用していないものと考えられる。

委員：福祉車両に混乗することは可能か。

事務局：詳しくはわからないが、児童が乗れる体制にはなっていないと思う。

委員：将来的にできるようであれば、工夫をしてでも検討すべきと考える。

委員：見直しにあたっては、保護者・児童の不利益とならないよう配慮してほしい。

委員：経費を削減できる手法を検討してほしい。

－総括意見－

委員長：総括意見としては、「拡充・縮小以外の見直し」とし、具体的な文言については委員長と事務局で調整し、次回の委員会で提案する。

(2) 地域マネージャー活用事業交付金

－ 事務局より資料3について説明 －

【②拡充】の意見

評価シート記載意見

これまでの地域マネージャーの導入事業についてはそれぞれ差異はあったものの成果を上げることができたと感じている。中でも竹パウダー米の生産開発などは全国的にも有名となっており、今後もこれらに類した形で特徴ある農業等を進める必要性から、本制度は形を変えても拡充していく必要がある。

委員：行政からも助言等、交付金以外の支援をするなかで行政と地域マネージャーが連携し事業に取り組める仕組みを期待している。

【⑥拡充】の意見

評価シート記載意見

広い面積に対し人口が少なく行政課題は山積み。その上支所の行政職員は減少の一途・・・という中で、地域毎に微妙に異なる、公共性の高い課題について、地域の人が自ら専門性を持って取り組むというこの事業は、市民の自立を促すすばらしい仕組みだと思います。開始からまだあまり年数が経っておらず、完全にうまくいっている地域ばかりではないと思いますが、他地域の事業も参考にしながら、長期的な視野で充実させていくべき事業と考えます。行政職員さんたちも、地域マネージャーさんたちの仕事から学ばれること、得ることが大きいのではないのでしょうか。

委員：本制度に非常に期待しています。

【③拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

- ・新たな制度設計を行う時、国の制度や区民の要望等十分な討論の元で、地域マネージャーの役割・位置付けを明確にし、業務分担を確認実施することを望む。全自治区において、この地域マネージャーの設置を望む。
- ・一人当たり 7,300円/日では安いと感じる。

委員：市民へわかりやすく活動を周知してほしい。

【④拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

業務内容を見ると、しっかり実績・成果をあげておられる地域があり、必要な事業であると思います。今後は、まず各自治振興区がしっかり地域に根付くこと、次世代につながる地域づくりをするため、これまでの実績を地域全体に繋げていくことができる制度設計を行ってほしいです。

委員：評価シート記載のとおり。

【⑤拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

- 今後も充実が求められ、期待が高まる事業です。今後の充実のために次の点に配慮いただきたいと思います。
- ・地域マネージャーの事業内容を積極的にPR、公表すること。
 - ・地域マネージャーに研修等を定期的実施すること。（コミュニケーションや倫理、地域福祉に関する内容など）
 - ・よりよい人材確保につながるよう、待遇面にも配慮すること。

委員：評価シート記載のとおり。

【⑦拡充・縮小以外の見直し】の意見

評価シート記載意見

行政が振興区に何を求めているのか見えていない。指針を示すべき。現在、地域の課題を解決するには地域マネージャーの力が必要です。又、各振興区の広報紙を市全体で共有し、活動を市民に知ってもらうことも必要だと思う。

委員：賃金を含め地域マネージャーの処遇改善をしてもいいと思う。先日の社会福祉協議会の広報紙に各地域の活動がわかりやすく掲載されていた。自治振興区の広報紙は、管内地域では周知されると思うが、各地域で様々な活動がされており、市全体で共有できる仕組みづくりが必要ではないか。

－その他の意見－

事務局：プラモニ意見の中で、評価シートの一番上の意見については、地域マネージャーではなく地域おこし協力隊の制度と混同されていると思われる。

委員：人件費が安いとの意見があったが、高いか安いかわからないが、人件費以外にもガソリン代等を負担している。一部の自治振興区では独自に燃料費等を経費として地域マネージャーに支給している。

委員：地域マネージャーの交付金算定は、人件費相当か。

事務局：市の臨時職員を基準としている。燃料費等の必要経費は、交付金に算定できるよう見直しを検討しているところである。

委員：健康保険等の総合的な労働条件なども考慮して、評価しないといけないと思う。

事務局：現在は、単純に活動日に人件費相当をかけて算定したが、今後は、雇用保険等も含めた諸条件を考慮した算定に見直しを行いたい。

－総括意見－

委員長：総括意見としては、「拡充・縮小以外の見直し」とし、具体的な文言については委員長と事務

局で調整し、次回の委員会で提案する。

(3) ひろしまの森づくり事業（環境貢献林補助金）

－ 事務局より資料4について説明 －

【②現行どおり】の意見

評価シート記載意見

昨今、木材価格の低迷から、山林へ対しての関心が希薄となり、手入れをされていない山林(資料からすると人工林の35%)多くなっている。今後も拡大の傾向から、森林の荒廃へもつながる可能性があり、本事業は益々必要となっている。したがってこれまで通り事業を継続する必要がある。

委員：本事業は非常に効果的であると考えます。

【③現行どおり】の意見

評価シート記載意見

- ・ 所管課の記載通り、森づくりの必要性を理解するため、もっと市民へのPRが必要と感じる。
- ・ 普及率はどうか？

委員：現行どおりの仕組みでよいが、普及率の18%がもう少し上がる工夫をしてほしい。

【④現行どおり】の意見

評価シート記載意見

環境のこと、災害のことを考えると森林保全は重要だと思います。元気な森づくりの大切さ、必要性を市民・県民（特に若い世代）に理解してもらわなければならないと思います。若い世代の人が林業に関心を持ち、職業として携わる人が増えたらよいと思います。

委員：評価シート記載のとおり。

【⑤現行どおり】の意見

評価シート記載意見

森林を県民共有の財産ととらえた事業の意義は大きいと思います。必要な取り組みであるので、納税している人に事業内容や効果のPRを積極的に行うべきだと思います。

委員：評価シート記載のとおり。

【⑦現行どおり】の意見

評価シート記載意見

具体的にどの地域でどのようなことをして、どのようになったのか、ビフォー・アフターを写真等で視覚に訴える方法で市民に周知をはかるのはどうでしょうか。

委員：庄原市の大半は森林であり、大切な事業である。文字を羅列した報告書ではなく、写真やイラストで市民にわかりやすく周知をしてほしい。

【①拡充】の意見

評価シート記載意見

地球環境の異変が温暖化と結びついているといわれる中で、森林の持つ重要性の認知度はまだまだ低い現状であ

る。森を守ることが地球環境を守ることに繋がることを多く住民に知ってもらうことは必要なことである。豊かな環境を守るため、県を挙げて取り組むことは重要・不可欠である。

委員：評価シート記載のとおり。

【⑥意見保留】の意見

評価シート記載意見

評価は保留させていただきます。

委員：限られた時間・資料の中で、おおむねの理念などは理解できたが、有効性、満足度など詳細について適格な評価が難しく、評価分布としては、評価を保留する。

－その他の意見－

委員：スギ、ヒノキ以外の人工林は何か。

事務局：松が多く、広葉樹もある。

委員：本事業は県税を財源としているが、本事業の継続性について県の今後の動向は。

事務局：県の動向は未定である。

委員：岡山県西粟倉村等では、森林で収入が得られる仕組みづくりされている。

事務局：材価が上がる仕組みづくりを検討したい。また、バイオマス発電等の手法も情報収集や研究していきたい。

委員：材価が上がる、とはどのような状況が想定されるのか。

事務局：人口が現状で住宅の建設も増えない中で、材価が上がる仕組みは難しいが木造で3階建が建設可能なCLTなどの普及にも取り組んでいきたい。

委員：東城では「木の駅プロジェクト」に取り組んでいると聞いているが、これを「ひろしまの森づくり事業」で上乗せして取り組めないのか。

事務局：県とも協議した経緯があり、県も制度活用条件を緩和しているが、上乗せまでは現行制度ではできないとの結論であった。

委員：市の公共施設では、地元材を使うよう努力はされている。

－総括意見－

委員長：総括意見としては、「現行どおり」とし、具体的な文言については委員長と事務局で調整し、次回の委員会で提案する。

5. その他

委員長：次回の会議は、平成28年12月5日午後1時30分から行う。

6. 閉会